

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム尾西蓮池の家
(ユニット名)	3号館
所在地 (県・市町村名)	〒494-0019愛知県一宮市蓮池字郷東20-2
記入者名 (管理者)	(藤田う月)駒瀬律子
記入日	平成 20年 10月 21日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>管理者はグループホームの理念「優しくておだやかな静かな介護」に基づく運営方針を日々話している。</p>	○	各自心がけ良い介護を目指す(やさしく穏やかな介護を目指す)
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理念は玄関の見やすいところに掲示してある。</p>	○	職員は日々の業務とミーティングなどで実践していく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>中学校と連絡を取り、体育祭の参観をしたり、村・子供会のお祭りへの参加をして、管理者がご祝儀を出したりしている。</p>	○	家族・地域の人から近隣の人(特に)理解してもらえるように努力していく(これからも)
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>挨拶を交わし、気軽に声を掛け合ったり、また、長いこと顔を見ないとあの人どうしたの?と利用者さんのことを心配して聞いてくださる方もいる。隣の畑からなす・とまと・きゅうり・すいか等もらいます。</p>	○	挨拶は必ず交し合い、隣近所の人と気軽に声を掛け合う関係を作っておく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域活動、行事等に慰問あり。舞踊など披露し大変喜ばれる(ちびっ子さんも参加)</p>	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	固く冷たいイメージの施設ではなく、アットホームな雰囲気の中で生活できるように支援している。相談を受けることもあり、独居の方への支援もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び実施する意識を理解している。身体拘束等について拘束のないように常に気を配り目標としている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回取り組み、その時その時のホームの内容に基づいて取り組んでいる。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。ホーム内の事情を話をして市の方が補助して下さる。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の方がいたことがありました。二人ほど、成年後見人制度を使っています。多方面からの支援をしました。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対いけない。防止に努めている。大声で怒鳴るなど、注意をしている。	○	管理者の注意(言葉)をいつも頭に浮かべ、防止に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、細部にわたり説明し、理解をもらっている。	○
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが相談された場合、管理者に相談・ミーティングを開き検討し改善している。管理者がキーパーソンを活かして説明が理解してもらっている。	○ 充分、説明を行い理解・納得を計っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者が月一回、家族に近況報告をしている(手紙)。何かにつけ、電話対応を欠かさない。	○ 家族の未訪時には、健康状態や日常の暮らし振りを報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティング開き、検討し改善に努めている。	○ 家族との関係よくホーム未訪時に意見・不満・苦情も言いやすい雰囲気作りを心がけていくようにしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案を聞く機会を時折、設けている。ミーティングを常にかいている。	○
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	オーナーと相談して時に合わせて職員のシフト内容をしている。月・水・金に余裕があれば一人余分体制をしている。	○
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは平屋建てなので他のユニットの職員ともコミュニケーションがとり易くお互いに思いやりの気持ち忘れずに、利用者さんを見守っていると同時に職員の朝・夕の各館への声掛けは欠かさない。	○ 職員の異動は必要最小限にとどまっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修課程のビデオと観てレポート書き、トレーニングを行っている。(レポート提出)	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの交流会(日帰り旅行)など、参加して色々の面で勉強し、質の向上を図っていく。稲沢との交流を持っている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	時々、食事会・コミュニティーなどして、コミュニケーションをとる。カラオケに行ったり、その人に合わせて取り組んでいる。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	意見や要望はミーティングを開き、検討している。ちょっとした考えでも皆でミーティングを開き確認している。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	聞く機会を作り、受け止める努力をしている。本人の不安をつかまえて対応している。自宅への電話・買い物等	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族に対する信頼関係は大切にしている。長い方が多いので理解をされる努力はしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリを数人、お願いしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アットホームな雰囲気の中で生活し、自分の居場所という安心感を感じてもらっている(くつろげる雰囲気)。外のカラオケ支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		入居者の会話の中で本人にとって大切な経験や出来事を知る。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時々、面会に来てもらっている。電話連絡を欠かさない。家族の写真を壁に貼っておく。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	都合のつく限り、面会に来てもらっている。		家族の協力も得て支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人が孤立せず、利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている。		歌集を作り、暇な時間は利用者さん同士の輪になって和気藹々と歌っている。皆さん歌は元気が出ると大好きである。長く続くよう、支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話がかかってきて、タイを釣ってきたから持ちに来て等、交流は続いている。独居の奥様への訪問等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの一人一人の暮らし方・希望・意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	枕が変わると眠れないという人もいるが、枕や戸棚・湯のみ・茶碗の一つ一つを日ごろ、使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	見守りと少しの時間でも利用者さんに接するよう、努めている。朝夕のバイタルチェック等している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアのあり方について各々の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各々の見た目と感じた意見を参考にし、計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	来訪してもらうのは、連絡さえあれば何時でも来て頂く等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学校・民生委員・消防等、交流を持っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリを数人受けている。週三回。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市との交流はあります。講習会等への参加をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医月一回の往診あり、検査等は病院受診(採血・胸部レントゲン)実施している。年一回の検査・インフルエンザ等受けている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の医師と関係を築きながら職員が相談したり支援している。	○	定期的に受診している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護婦が当施設に4名いて、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	清潔に心がけ、感染症には注意を払っていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	週三回は交代で詰所と病室を訪室し、情報を聞き相談に努める。	○	早い回復と退院のための支援をし、退院後の受け入れについても全職員が理解している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医の説明を聞き、家族と相談。医者・家族と相談し、ホームでのみとりを行っている。	○	家族がかかりつけの医師と頻度に話し合い、利用者に対して最善の対応をしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	段階ごとに医者と家族と相談して、日々支援する努力をしている。家族との話し合いを持っている。		家族との話し合い、主治医にも相談していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院等が多いのでやむを得ない状況でいる。馴染めるように工夫している。		家族・本人に関わるケア関係者間で十分に話し合い、その場の雰囲気徐々に馴染める様に支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導・介助や確認・失禁の対応は不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っていくようにしている。	○ トイレ誘導時の声掛けは他の利用者さんのいる前では、さりげない誘導をしてゆくこと大事。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物・散歩・百円均一に出掛ける支援。自宅への電話等してもらっている。	○ その日をどのように過ごしたいか？一人一人のペースを大切に行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケで唄い、一日を楽しまれる。毎日歌い歌唱力ついている。	○ 時々外のカラオケ喫茶に出かけるよう、支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服も汚れたら直ぐ着替えも清潔に保つ。理髪・カット・毛染め、移動理容車で対応。家族となじみの店に行く人もいる。	○ 二ヶ月に一度くらい、散髪し清潔感を保って生きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は何よりの楽しみの一つ。職員も食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	職員も同じ食事を取り、一緒に楽しんで食べられるようにし、準備も利用者と一緒にできたら理想。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族が面会の折、持ってこられることが多い。(おやつ・飲み物など)お茶の時間に四季折々工夫している。	一人一人の状況に合わせて日常、楽しめるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のチェック表を見て入居者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。		気持ちよく排泄できるよう支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきになっているが、入居者の希望により、シャワー浴はいつでも可能としている。		時間の許す限り、ゆったり・のんびりと湯につかってもらいたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人一人の睡眠、パターンを把握し、夜眠れない入居者には一日の生活リズム作りする(歌・散歩など)		フロアーで軽く音楽とかけておく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人一人が楽しみごとや出番が与えられるよう、場面作りの支援をしている。カラオケの準備・片づけ等している。		掃除・洗濯物畳み・食器拭き(洗って)一人でも多くの人に手伝っていただけるようにもって行く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帖があり、家族からお金を受け取る時は預かり証をもらっている。現在は二名、所持金を持っている。		100円均一店へ出かけ、日用品の必需品など買うように支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者に許可を得て実行。週一回喫茶店、天気の場合で戸外への散歩をしている。外での朝礼。		事故のないよう、なるべく戸外に出かけられるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	カラオケボックスに数人で出かける。家族も外出支援には協力的な方もある。結婚式など行っている。		家族にもお願いし、外出支援を多く持ちたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが後ろで付き添い、電話口に立ってもらい。手紙・はがき等、届くと大喜びで何度も読み返している。	○	許可得てる事務所の電話使用(必要時)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホーム内に居ると家族、知人の面会が嬉しそうに喜ばれる。	○	大歓迎である。良い雰囲気です。居心地よく過ごせるよう工夫。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束は行わないことをすべての職員が認識しており、身体拘束のないケアを実践している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中だけは厳寒に鍵をかけなくて良い様に配慮をする。	○	職員が常に見守り気配りし対応していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所位は把握している。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・包丁は別場所に保管	○	目立たないところに保管場所。決まっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	お食事時の誤嚥には絶対気をつけようと注意を払っている。夜は床にクッション等、工夫。手すりを利用し転倒防止に努める。		監視・見守りに重点おく。誤嚥に注意！

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼し、年一回救急法の訓練を受けている。	○	開設五年目に入り応急手当に対応している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回避難訓練。地域の人たちの携わりは大切にしたい。		毎月一回、避難訓練実施し、地震・火災の発生した場合は？と常に頭に写くようにしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リフト浴等、精一杯の方も居るので状況の説明は行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕バイタルチェック全員実施。異変あった場合、即管理者に連絡し対応する。判断し病院受診している。		変化あった場合、申し送りノートに記述し、記録明確にしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人が医師の指示通りに服薬できるように支援し、症状の変化・確認に努めている。		各個人の名前入りの薬袋使用。確認に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を意識し、献立メニューを作っている。適度の運動で一步でも多く歩くように支援。		デザートにヨーグルト(毎日) 食べ物の工夫
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	清潔保持のため、義歯の手入れ、歯磨き・うがい支援をしている。		電動歯ブラシ使用と口腔内、さわやかに目的でモンダミンしようなど口腔状態に応じて支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量も毎回記入する。夜間は湯のみに白湯を入れ居室の机の上に置き、訪室時飲んでもらうようにする。場合による声がけをしている。		こまめに水分補給してもらうようにする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防注射毎年実施している。感染症のキャリアの有無を診断書で確認。未然に防ぐ工夫をしている。		手洗いの励行。予袋を使用する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	火・木・土曜日が食材の注文日、翌日配達されるようになっている。冷蔵庫保管で新鮮で安全な食材と衛生管理に努めている。		衛生管理を心がけ、安全な食材の使用と管理に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には花がいっぱい飾っており、立ち入り易い雰囲気になっている。		玄関先にはお花で色とりどり良い雰囲気を漂わせている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物がおいてあり柔らかい雰囲気又家庭的な居場所で過ごされている。		生活観や季節感を取り入れて居心地よく、過ごしていただくよう、工夫していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人ひとりでゆっくりとくつろぎ、ラウンジでは仲間とテレビを見たり、語り合ったりして楽しむ光景がある。		外の景色が見られるよう、ベッドの位置を配置。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたなくなったものや好みの物を置いて居心地よく過ごせるような工夫をしている。		家で使用していた家具など、入居時に搬入し居心地よく過ごして頂ける様支援する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	消臭剤を置いている。換気に努め温度調節を行っている。エアコンは一年中、使用している。	○	天気の良い日には一時間おき位に窓を開け換気を行っていくようにする。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりがついており、転倒防止に努めている。段差がない様に設計してある。		ホームが一階建て3ユニット、バリアフリーにはっており、入居者が他のユニットへ自由に行くこと可能である。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族から聞き、楽しみと生きがいを持って暮らすことに配慮している。一目で分かるカレンダーで歳月が分かる。		活字の練習(自分の名前・生年月日・住所) スタッフと一緒に作品作りし飾る むりえ・折り紙・貼り絵など
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	一部分を耕し、野菜畑にしてある。バーベキューも毎年行っている。散歩の出来る広場がある。外側にプランターでお花がいっぱい咲いています。		天気の良い日には外気浴。イベントの折は踊りなどボランティアの方々に支援してくれ楽しんでます。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/> ①毎日ある
	<input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある
	<input checked="" type="checkbox"/> ③たまにある
	<input type="checkbox"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="checkbox"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・外出支援・・・自立の人は毎週喫茶店へ出かけコーヒーなど注文。色々会話も弾み、楽しい又は楽しみの一つです。
- ・カラオケ喫茶・・・歌好きの人、数人でカラオケボックスなどに出かけ、ステージに立ちマイク片手に歌う。